

# 航空事故調査報告書

テラトーン式ティエラ2型超軽量動力機

和歌山県和歌山市永穂

昭和62年10月10日

昭和63年7月12日

航空事故調査委員会議決

委員長	武田	峻
委員	薄木	正明
委員	西村	淳
委員	東	昭
委員	竹内	和之

## 1 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

テラトーン式ティエラ2型超軽量動力機(フロート付き)は、昭和62年10月10日14時27分ごろ、和歌山県和歌山市紀ノ川付近を訓練飛行中、同川右岸堤防の北側約50メートルの乾田に墜落した。

同機には、操縦者のほか1名が搭乗していたが、両名とも死亡した。

同機は大破したが、火災は発生しなかった。

### 1.2 航空事故調査の概要

#### 1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、昭和62年10月11日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当

**603001**

該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

### 1.2.2 調査の実施時期

昭和62年10月12日～13日 現場調査

## 2 認定した事実

### 2.1 飛行の経過

テラトーン式ティエラ2型超軽量動力機(フロート付き)は、昭和62年10月10日昼ごろから、和歌山市紀ノ川上空で訓練飛行を行っていた。目撃者によれば、事故直前の同機は、同市永穂付近の同川上空を上流から下流へ西に向かって飛行した後、機首を北東に転じ、対地高度約30メートルで同川右岸堤防を越えたところで右へ旋回中突然機首を下げ、きりもみ状となって、堤防から約50メートル北側の乾田(同市永穂字小西646番地)に墜落したとのことである(付図1参照)。

事故発生時刻は、14時27分ごろであった。

### 2.2 人の死亡、行方不明及び負傷

操縦者及び同乗者1名が死亡した。

### 2.3 航空機の損壊に関する情報

#### 2.3.1 損壊の程度

大 破

#### 2.3.2 航空機各部の損壊の状況

両主翼	破 損
機体フレーム	破 損
プロペラ	両ブレード折損
フロート	損 傷

### 2.4 乗組員に関する情報

乗組員A 男性 30歳

総飛行時間 昭和62年4月18日から同年8月13日までの間で4時間19分(ジャンプ飛行

**603002**

陸上75回 水上26回)その後、事故に至るまでの記録は不明

乗組員B 男性 40歳

総飛行時間 昭和62年4月18日から同年8月13日までの間で2時間29分(ジャンプ飛行  
陸上66回)その後、事故に至るまでの記録は不明

## 2.5 航空機に関する情報

### 2.5.1 航空機

型 式	テラトーン式ティエラ2型(フロート付き)
総飛行時間	昭和62年4月17日から同年8月13日までの間で31時間 (その後、事故に至るまでの記録は不明)

### 2.5.2 エンジン

型 式	ロータックス式532UL型
燃 料	混合燃料 40:1

注1: 同好者によれば、同機は昭和62年4月17日新品で購入され、本事故の乗組員及び同好者により、滋賀県草津市下笠町及び和歌山市紀ノ川河口の場外離着陸場で、陸上及び水上ジャンプ飛行等の訓練に使用されていたとのことである。

注2: 販売業者によれば、同機は、販売業者により毎月3~4回、機体及びエンジンの点検整備が行われており、事故発生の4日前(10月6日)の点検整備では、異常は認められなかったとのことである。

## 2.6 気象に関する情報

事故現場の南西約7キロメートルに位置する和歌山地方気象台による当日の気象観測値は、次のとおりであった。

14時00分 天気 晴れ、南西の風 4.5メートル/秒、気温26.1度C

15時00分 天気 晴れ、西南西の風 4.0メートル/秒、気温25.0度C

なお、目撃者によれば、事故当時、現場付近では時折やや強い風が吹いていたとのことである。

**603003**

### 3 事実を認定した理由

#### 3.1 解析

3.1.1 同機のエンジンは、調査結果及び目撃者の口述から、事故発生まで異常はなかったものと推定される。

3.1.2 目撃者によれば、同機は、紀ノ川上空から対地高度約30メートルで同川右岸堤防を越え、農地上空に差し掛かったところで右へ旋回中、突然機首下げとなり、きりもみ状で墜落したとのことであるが、この原因としては、操縦者の操縦操作又は同機の組立て具合のほか、現場における当時の風の状況の関与等も考えられるが、そのいずれであるかを明らかにすることはできなかった。

3.1.3 同機には、乗組員 A が右席、乗組員 B が左席に搭乗していたものと認められるが、事故当時いずれが操縦していたかは不明である。

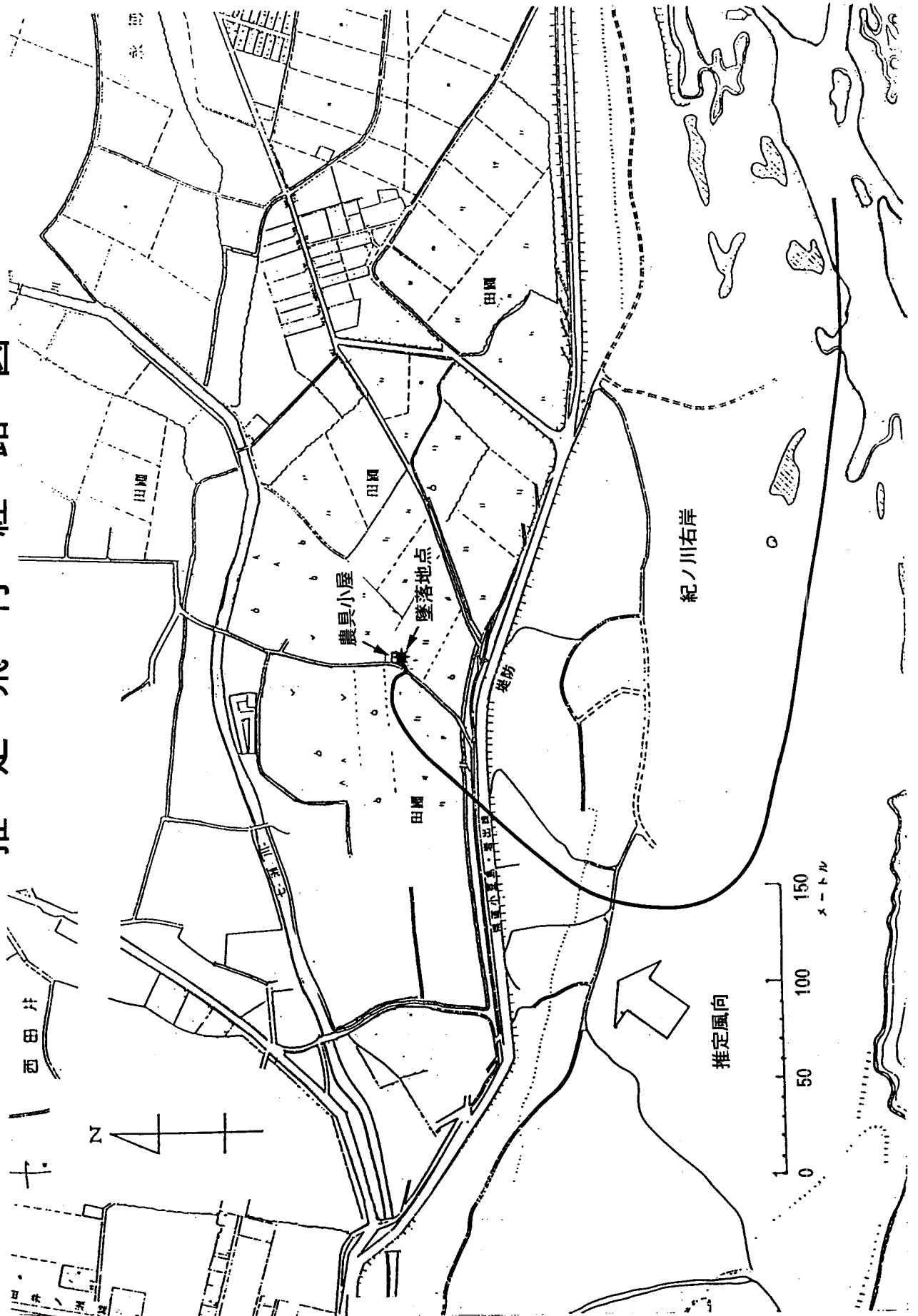
### 4 原因

本事故は、同機が低高度で飛行中、突然機首が下がり、きりもみ状で墜落したものと認められるが、その原因を明らかにすることはできなかった。

**603004**

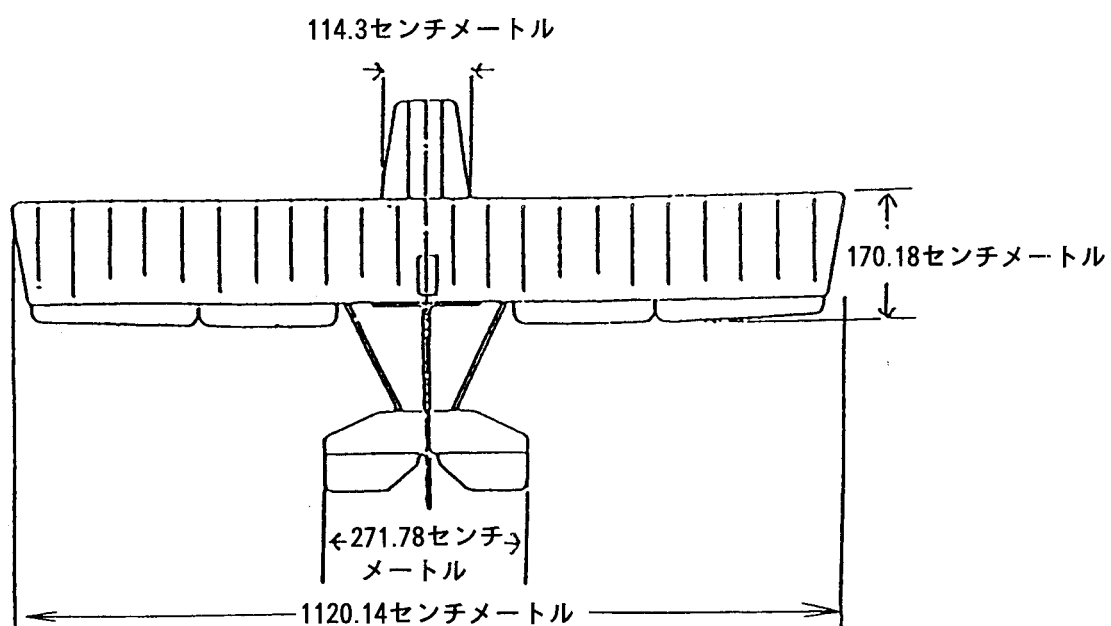
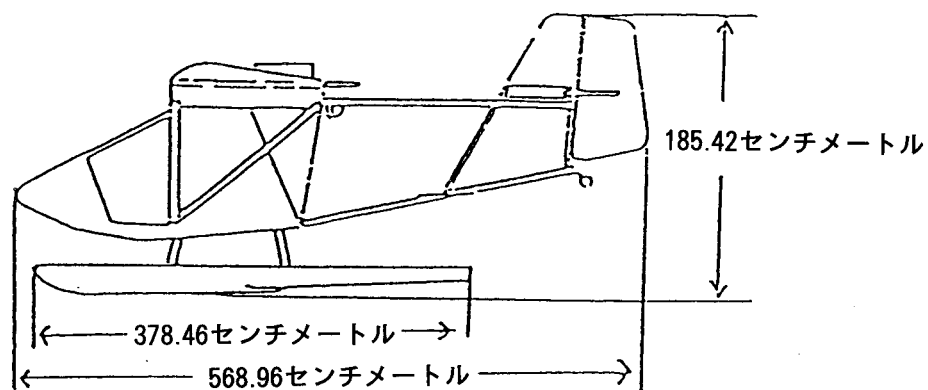
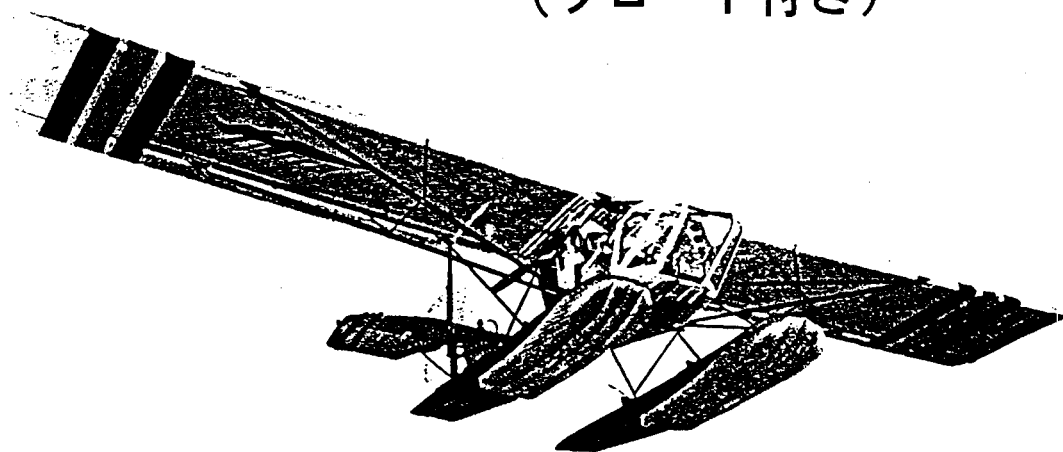
付図1

推定飛行経路図



603005

# テラトーン式ティエラ 2 型超軽量動力機 (フロード付き)



603006